

万博に向けた資源循環に 共にチャレンジ！ ごみゼロ共創ネットワーク

<本日の話題提供者>

安藤悠太(京都大学・京都超SDGsコンソーシアム)

宇高道義(NTTデータSBC)

辻菜摘(丸神商事・京都超SDGsコンソーシアム)

原田 禎夫(同志社大学)

お話したい内容

- ごみゼロ共創ネットワークとは？
- 情報プラットフォーム構築について
- 万博500日前企画について
- みなさんをお願いしたいこと

※7/27に実施したセミナーの資料(関西広域連合における取組紹介を含む)は、SDGs KYOTO TIMESにアップ済みです。

<https://eco.kyoto-u.ac.jp/sdgs/kyoto-times/4712/>

ごみゼロ共創ネットワークとは？



「ごみゼロ共創ネットワーク」とは？

- 2022年度に、「TEAM EXPO 2025 共創パートナー」として、開始
- 窓口は、京都超SDGsコンソーシアム(京都市・京都大学・民間企業約20社からなる)
- 2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有や効果・取組の可視化、学術・技術分野との連携によるブレークスルー、上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。

「ごみゼロ共創ネットワーク」のポイント

① 実はEXPO2025は「持続可能性」に熱い。万博までと、万博の先へ！

② 目の前の「ごみ」だけでなく、目線を広げて

2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有や効果・取組の可視化、学術・技術分野との連携によるブレークスルー、上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。

※ここは後で

③ 大阪ブルーオーシャンビジョンは、世界の約束事。

当初は、2050年までとしていた期限が、2040年に早まり、待ったなし！

【参考】万博における持続可能性の議論

2025年日本国際博覧会協会「持続可能性有識者委員会」

- 2022年4月「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」を策定
 - その中でも重要視している脱炭素・資源循環に関して「改定版EXPO2025グリーンビジョン」を公開
- ①万博におけるカーボンニュートラル(CN)の実現及び2050年のCN社会の提示
 - ②サーキュラーエコノミーの実現(需要サイドの技術等導入によるごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロの実現)
 - ③来場者等の理解促進を図り、行動変容を起す仕組みの導入
 - ④会場内だけでなく会場外も含めた実証・実装プロジェクトの実施
 - ⑤グリーン成長戦略/重点産業分野における需給両面の取り組み推進
 - ⑥スタートアップ等様々な主体の参加促進

【参考】大阪ブルー・オーシャン・ビジョン

日本発・世界の約束ごと「海洋プラスチックごみの追加的な汚染をゼロに！」

- 2019年6月に開催されたG20大阪サミットにおいて、日本は2050年までに**海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロ**にまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案し、首脳間で共有され、全世界へ広がっている。
- 2023年5月に開催されたG7広島サミットに先立って、札幌市で開かれたG7気候・エネルギー・環境相会合で、**「2040年までにゼロ」**という目標とすることに合意し、加速が求められる。



【参考】多様なプレイヤーによる共創を目指して

- 産学公民、多様な世代、全国(→世界へ)
- 特に、研究者も積極的に関与・伴走することで、ニーズに応じた研究展開や、研究結果のスムーズな社会実装を目指す
- メンバーの例:



音楽家・数学者・
STEAM教育者
中島さち子氏



日本プラスチック工業連盟
加藤英仁氏



同志社大学
原田禎夫氏



京都大学
浅利美鈴氏





【参考】特に若い世代にも期待！

2022年11月5日(土)10:00-14:00@京都大学超SDGsシンポジウム
キックオフとして、約30の全国の若者等からの事例紹介と提言



一般社団法人maiPLA



浜中町立散布小中学校



京都女子大学青木研究室



トラッシュロワイヤル



大阪府立堺工科高等学校 定時制



只見中学校

「ごみゼロ共創ネットワーク」のポイント(続)

私たちの課題感

- 全国で多くの清掃活動が行われているが、必ずしも、優良事例や課題が共有されていない(もったいない)
- 取組効果がわかりにくい
- 効果的な取組が難しい
- この分野の研究は熱い
- DXを、もっと賢く使えないか
- 大阪ブルーオーシャンビジョン達成には、そもそもプラのリデュース、リユース、リニューアブルも不可欠

2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、

○全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有

○効果や取組の可視化

○学術・技術分野との連携によるブレークスルー

○上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。

いよいよ活動開始！
万博500日前キックオフへ

当面の取り組み(予定)

1. 清掃活動

1-1) 活動団体の抽出&ネットワーク化(登録システム)

- ・2023年5月より、登録呼びかけ中
- ・自治体等を通じた団体等への案内の可能性を相談
- ・主要団体への個別の依頼

1-2) 活動団体の実態調査→ニーズ(課題)・シーズ(優良事例)発掘

- ・2023年度後半に、アンケート調査を実施予定

1-3) 清掃活動の見える化支援(全国Map)→効果的な清掃活動の提案

- ・2023年5月より、ピリカシステム稼働
- ・2023年11月に、ごみマップアプリ進化試行版リリース
- ・2023年度後半に、統合的プラットフォーム開設予定
- ・分析などの(研究)体制検討中

1-4) 一斉清掃やシンポジウムの実施→ムーブメントへ

- ・2023年7月27日 セミナー実施
- ・2023年9月23日 セミナー実施
- ・万博500日前(2023年11月30日)企画として、11月26日を中心に一斉清掃&調査「ごみゼロ共創トライアル」(仮)を実施予定(前後、数週間程度を、強化期間に)
- ※淀川水系をモデルに

2. 上流対策:上記の結果を分析し、上流対策に繋がるアクションも検討する

様々な動きがあるので、つなげ方を検討中

2023年11月に「ごみマップアプリ進化試行版」をリリースし、
万博500日前（2023年11月30日）企画として、
11月26日を中心に一斉清掃&調査
「ごみゼロ共創トライアル」（仮）を実施予定
（前後、数週間程度を、強化期間に）



11月末、一緒に取り組んで頂けませんか？

今、考えている情報プラットホームのイメージをご紹介します。

プラットフォーム構築について

実績がある「ごみマップアプリ」と連携しつつ、より多くの活動を可視化できるように工夫

「ごみマップ」アプリについて



「ごみマップ」アプリは、全国の河原や街中で拾われたごみ量をデータ化し、調査に活用する仕組みです。私たちが何気なく捨てたごみは、流域から川へ、上流から下流へ、川から海へと流れ込みます。そして海へと出たごみは、海洋生物等に悪影響を与えたりして、世界的な大問題となっています。日本全国、世界各国で拾われたごみをアプリ内でデータ化し、自由に研究に活用することで、より具体的な環境施策への指針を提示します。

プロジェクト保津川での10年以上の実績

ごみマップアプリ×ごみゼロ共創ネットワーク

「ごみマップ」アプリの活用によるネットワークの活性化

コミュニティ化

- ・活動報告
- ・情報交換
- ・リアル&オンラインによる交流
- ・全国同時イベント開催による盛り上がりの醸成
- ・ゲーミフィケーション的要素（レアごみ披露、ポイント制）

ごみゼロ共創ネットワークの活性化に向けた「ライト&コラボ」モード追加

プラットフォームイメージ

情報の収集/分析を通じて課題解決に取り組むためのデータプラットフォームを目指す

ごみゼロ共創 プラットフォーム

活動データ

分析/検討

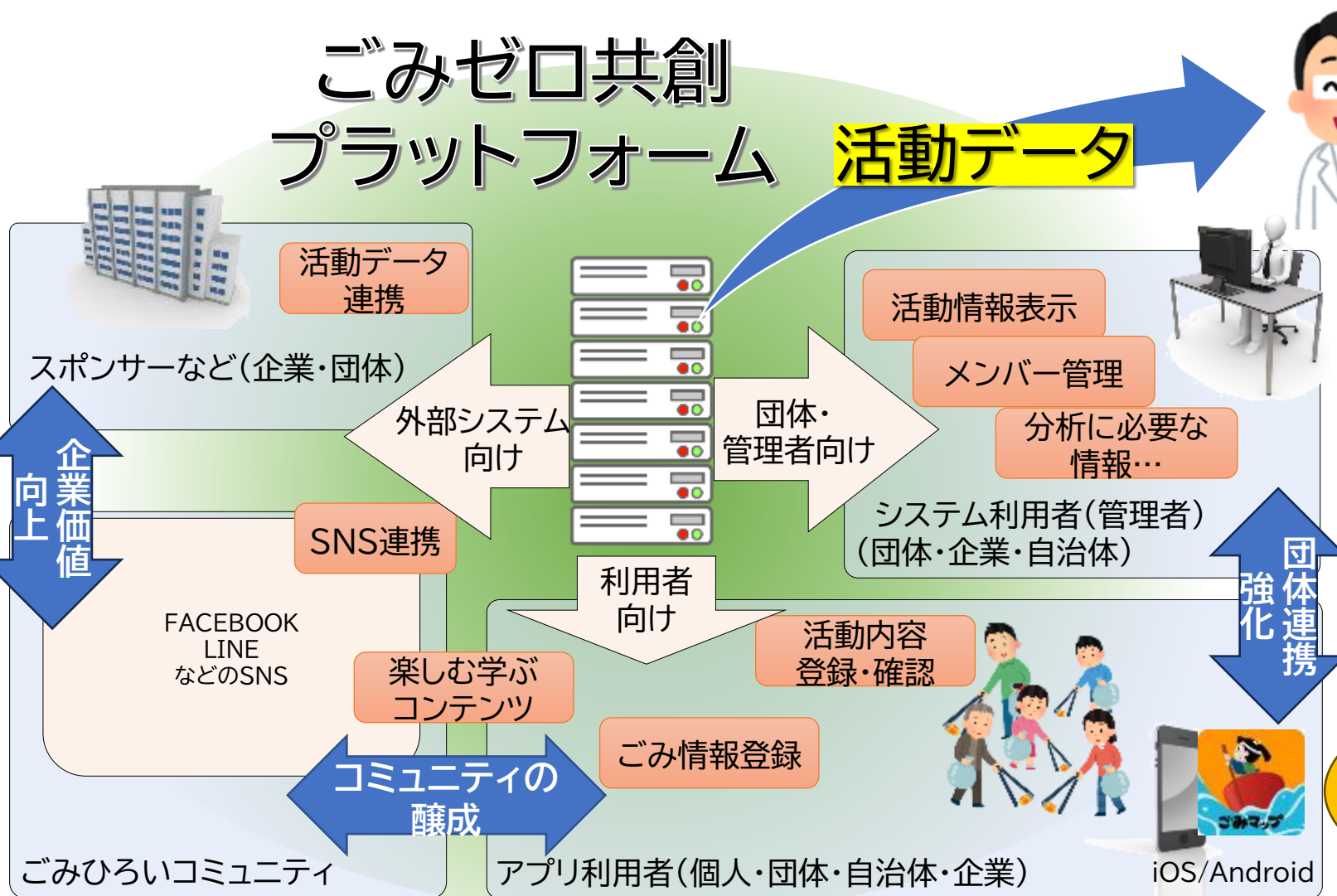
効果的な清掃活動
提案

啓発

広報

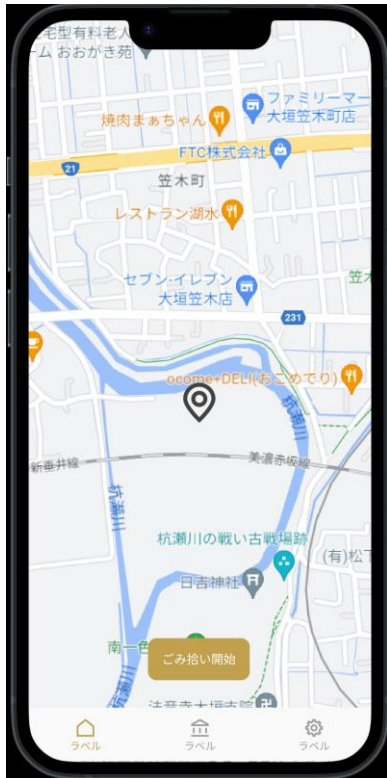
拡散

活動モチベーションの醸成
社会への浸透(一般化)

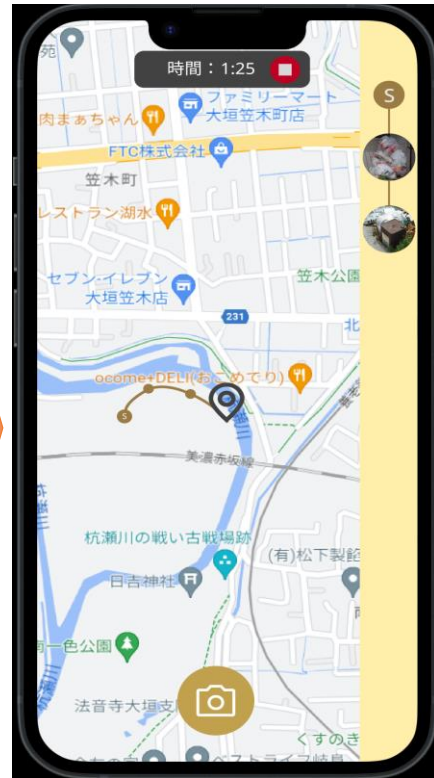


「ライト&コラボ」モードの画面イメージ①

ごみ拾い開始からの画面の操作イメージ



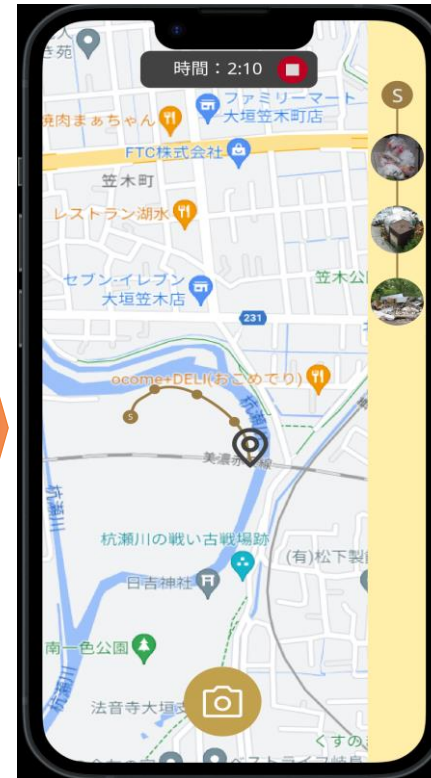
ごみ拾い開始ボタンでスタート



移動しながら軌跡を残す
撮影のボタンを押すと



ごみの種類を登録する画面が開く。
撮影と、ごみの種類をボタンで選択



ごみ軌跡の画面へ戻ります。
画面上部の停止ボタンを押すと



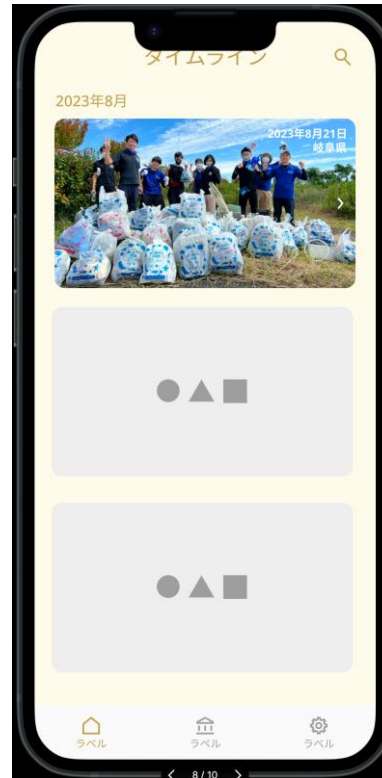
ごみ拾い終了画面へ遷移します。
⇒次ページ

「ライト&コラボ」モードの画面イメージ②

ごみ拾い終了から登録と、ごみ詳細のイメージ



撮影内容を時系列
(タイムライン)で表
示します。



画像をクリックする
とその詳細が見れ
ます。



ごみ拾いをした軌
跡を見れます。



ごみの総量を登録します。
詳細登録画面で、情報を入
力することもできます。
保存で終了。

多くの団体の活動を、地図に紐づけて定量・可視化

ロードマップ

2023/11/26「ごみゼロ共創トライアル（仮）」までに改良版の第一弾をリニューアル

ごみひろい活動促進、持続可能な社会の実現にITで貢献

スマホアプリの持続的な進化・データ活用機能の拡充

アプリ
リニューアル

クロスプラットフォーム

ライトモード追加
ユーザビリティ向上
調査機能強化
活動記録表示
データ分析機能拡充

プラットフォーム構築・機能追加

サーバ
リニューアル

クラウド環境へフルリプレース

写真座標反映
ID管理機能強化
データ分析機能追加
ランキング
活動管理追加
その他機能追加

環境構築&リニューアル

継続的な進化

STEP3

2023/7/27
「きょうとSDGsフェア」
で開発発表

2023/9/23
「EXPO2025に向けた海のSDGs会議」
中間発表予定

2023/11/26 万博500日前
一斉清掃&調査「ごみゼロ共創トライアル
（仮）」で運用開始

2024/3

2025
万博

長期ビジョン

ごみひろい活動促進、持続可能な社会の実現に貢献

- 自治体などの団体の利用価値向上
- 研究材料としての価値向上
- 個人の意識向上
- 世界への展開・連携

万博500日前（2023年11月30日）企画として、
11月26日を中心に一斉清掃&調査
「ごみゼロ共創トライアル」（仮）を実施予定
（前後、数週間程度を、強化期間に）

※淀川水系をモデルに



大阪や淀川水系などでの、これまでの取り組みも学び、
連携したいと考えています。

2023年秋に「ごみマップアプリ進化試行版」をリリースし、
万博500日前（2023年11月30日）企画として、
11月26日を中心に一斉清掃＆調査
「ごみゼロ共創トライアル」（仮）を実施予定
（前後、数週間程度を、強化期間に）



11月末やそれ以降、一緒に取り組むことを検討頂ける場合
（地域団体や学校、企業、個人など形態は問いません）
※基本、登録費等は、無料



- ①ごみゼロ共創ネットワーク登録（フォーム／メール）
- ②清掃活動等ができる日程や場所をご相談
- ③アプリ活用等のご説明、練習
- ④「ごみゼロ共創トライアル」の一環として清掃活動！
- ⑤結果共有 & 使い勝手等のフィードバック



ご清聴ありがとうございました。

ごみゼロ共創ネットワーク

登録はこちらから

<https://forms.gle/3xb9S2fDyAdsbxVG7>



●次回告知●
9月23日(土)

EXPO2025 にむけた 海のSDGs会議

in 京都里山SDGsラボ「ことす」(京都市京北)

& オンライン

2023年9月23日(土) 11:15-16:50 (部分参加可能)

話題提供予定者の例



公益財団法人
笹川平和財団 理事長
角南 篤氏



セイワーズフォーガシー
日本支局 理事長
井植 美奈子氏



東京大学 大気海洋研究所
国際学術分野 教授
牧野 光琢氏



京都大学大学院
地球環境学 准教授
浅利 美鈴氏



←プログラムの詳細：<https://eco.kyoto-u.ac.jp/sdgs/kyoto-times/>
参加費：オンラインのみ 3,000 円 (京北ブルーシーフードランチを含みます。)
参加申込みフォーム：<https://forms.gle/VV8e13BdCJbNTZsz9>
お問い合わせ：ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

参加申込み
フォーム



主宰団体 (一部調整中)：京都超 SDGs コンソーシアム、セイワーズフォーガシー 日本支局、
東京大学 FSI、日本財団海洋プラスチックごみ対策プロジェクト、京都里山SDGsラボ (ことす) 運営協議会ほか

海の課題を「食・ごみ・技術&イノベーション」という側面から取り上げ、幅広いステークホルダーに参画頂き、解決を加速するための場を試行・創出します。2025大阪・関西万博を契機に、飛躍することを目指し、そのキックオフの場にできればと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。